

## 「常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）」に対する 市民意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

市では「常磐地区市街地再生整備基本計画」の策定に向け、計画（素案）に対する市民意見募集（パブリックコメント）を実施しました。

その結果、42名の方から約150件の貴重な御意見が寄せられました。

今回のパブリックコメントは、具体の公共施設再編や地域整備計画について、広く市民意見を募ったものであり、これまでにない市民参加の取り組みとなりました。

計画内容に対する不足する視点に関する御指摘などを含め、多岐にわたる御意見を得ることが出来ました。

市では、御意見を踏まえ計画内容の一部見直しを行うとともに、専門家等により、いわき湯本温泉をブランド化する戦略を立てるなど、進め方の工夫を図りながら、本事業を推進していく考えです。また、計画策定後も様々な関係者等との対話を重ね、計画内容の妥当性を検証しながら、必要に応じ見直しを行うなど、柔軟に対応していきます。

たくさんの御意見、誠にありがとうございました。

### 1 募集概要

#### (1) 意見募集を行った案件

常磐地区市街地再生整備基本計画（素案）

#### (2) 意見募集期間

令和4年7月7日（木）～令和4年7月21日（木） 15日間

#### (3) 公開方法

ア 市ホームページへの資料掲載

イ 市役所本庁舎1階市民ホール、各支所の情報公開コーナー、担当課（都市計画課 本庁6階）への資料備え付け

#### (4) 意見提出方法

任意の様式に意見、住所、氏名、電話番号を記入し、都市計画課へ直接持参するか、郵送、ファックス又は電子メールにより提出。

### 2 募集結果

#### (1) 意見提出人数

42人

#### (2) 意見提出件数

約150件

#### (3) 市民意見の内容及び意見に対する市の考え方

別紙のとおり ※概要版は、次頁以降のとおり

(概要版)「常磐地区市街地再生整備基本計画(素案)」に対する市民意見の内容及び意見に対する市の考え方

※下線部は計画への反映箇所又は整合性等を確認した箇所を示します。

区分	主な市民意見の概要	市の考え(対応方針)
公共交通体系の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前の整備とともに、地域住民や観光客など来訪者にとって、安全で利便性の高い公共交通体系の構築も必要である。</li> <li>・ まちなかを周遊するバスがあると良い。</li> <li>・ 住宅街から市街地に高齢者を運ぶことを優先とした公共交通が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年8月に第二次いわき都市圏都市交通マスタープランを策定し、実行計画となる都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通計画の検討を進めているところです。</li> <li>・ 御意見も踏まえ、多様な交通手段の導入など、楽しいお出かけが実現できる取り組みについて検討を進めていきます。</li> <li>・ <u>基本計画(素案)に、「多様な交通手段の導入に向けた検討」を追加します。</u></li> </ul>
駅前への導入機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者などの利便性を考えると、駅前に生鮮食品の機能を整備していくことが望ましい。</li> <li>・ スーパーの閉店で高齢者が買い物に困っている。駅前に集いの場があると、昔から居る人達にとっても便利である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前の交流拠点施設及び周辺整備にあたっては、地域住民や観光客など様々な方が利用する場所とし、生鮮食品等の地場産品直売所など新規出店なども促しながら、訪れたい場所の形成に向けて検討を進めていく計画としています。</li> <li>・ <u>「買い物環境の整備」や「集いの場の整備」については課題と捉えていましたが、計画に未記載であったため、地区の現状と課題に追加します。</u></li> </ul>
公共機能の集約・移転場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前に公共機能を集約・移転することの必要性が分からない。</li> <li>・ 駅前が温泉地の玄関口なのであれば、公共機能は整備しない方が良い。</li> <li>・ 常磐市民会館などのある関船地区で良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共施設の集約については、一つの機能や偏った機能の施設または施設群が単独で立地していた場合、まちへの立ち寄りやすくなり、また、過度に車に頼ってしまうところがあるため、<u>地域経済への波及や健康の増進、効率的なインフラの実現に向けては、コンパクトなまちづくりが重要</u>と考えています。</li> <li>・ 鉄道やバスなどの交通結節点である湯本駅前については、今後の急速な人口減少や超高齢社会の到来なども踏まえ、<u>駅前を単なる通過場所ではなく、地域住民も含め、多くの立ち寄りや交流が生まれる場所とすることとし、公共機能と民間機能を備えた交流拠点を形成する計画</u>としています。</li> </ul>

<p>望ましい駅前空間の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前を歩行者優先のエリアとするなら、歩行者空間や動線を踏まえ、道路や交通広場の配置等の再検討が必要である。</li> <li>駅前が観光の顔であり、人に居心地の良い空間の実現を考えると、さらに議論の余地はあると考えられる。</li> <li>駅前は、車両の乗入れをできないようにして、訪れた人が過ごせる本当の「広場」にするべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前の整備範囲や道路配置等については、市街地の限りある土地の中で、交流拠点への導入機能、公有地や低未利用地等の土地利用、権利状況、さらには事業費、事業期間等を総合的に勘案し検討しています。</li> <li><u>駅前の歩行者空間の確保については、駅改札から交流拠点エリアへの空間において、人を中心とした滞留機能や動線を確保することにより、街への期待感、開放感さらには高揚感が得られるよう、具体的に検討を進めていきます。</u></li> <li>改札位置の追加や線路沿いの通路の表現を修正します。</li> </ul>
<p>多目的施設の仕様</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多目的施設については、様々な活動ができるようにしようとすると、中途半端になると思われる。</li> <li>体育館と市民会館という性格の異なる施設を多目的という名の下で統合することに違和感を感じる。</li> <li>何にでも使えるホールのようなものは、裏を返せば、何にも使えないということにもなるので、中途半端にならないような機能の選択が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本計画に記載の「カルチャー＋アクティビティ」機能については、スポーツ機能に特化したものではなく、多目的な利用が可能な機能として位置付けています。</li> <li><u>交流拠点施設のサービスのあり方や運用等については、今後、地域や関係団体等の方々と意見交換などを行いながら、具体的な仕様等を検討していきます。</u></li> </ul>
<p>スポーツ機能の集約</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ機能は、いずれ 21 世紀の森の方へ整備すれば良いのではないか。</li> <li>専門性のあるスポーツ機能は、上荒川公園の方へ集約するべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>全市的なスポーツ機能の集約については、「いわき市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共サービスのあり方の検討なども踏まえ、整理を進めていくこととしています。</u></li> </ul>

<p>関船弓道場の機能存続</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 関船弓道場が廃止との話があるが、これまで活動してきた方々が非常に困っている。</li> <li>• 今後も地区で継続した活動を行っていくためには、交流拠点施設の多目的施設など、弓道ができる環境・機能を希望する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来的な人口減少などによる社会構造の変化、施設等の老朽化などによる維持管理・更新経費の増大を踏まえ、<u>「いわき市公共施設等総合管理計画」</u>を改定し、<u>施設等のあり方を抜本的に見直すこと</u>としています。</li> <li>• <u>その中において、全市的な弓道場のあり方・運用等の検討</u>も進めていきます。なお、本計画により、現在の施設が早急に休止・廃止となるものではありません。</li> <li>• 交流拠点施設において、弓道ができる環境・機能の確保の要望については、貴重な御意見として承ります。</li> </ul>
<p>地域のブランド化・専門家の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今の計画に欠けているのは、プロの視点と意見である。まちのあり方や構造等について、各分野をまたがる専門家によるデザイン会議で議論する必要がある。</li> <li>• 将来的なまちがどうあるべきなのか等を専門家にも介入してもらいながら、議論を重ねる必要がある。</li> <li>• みんなの意見を取り入れすぎて、無難なまちにはなあって欲しくはない。専門家等の力も借りて、新しいことを考えていくべき。</li> <li>• これからの温泉街やまちはどうあるべきなのか、何を目指し、どのように観光客を集客し、地域が稼いでいくのかを具体的にしていくべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市街地再生の実現に向けては、御意見のとおり、一貫性のある「考え方」や「デザイン」でまちを形づくることが不可欠と考えています。</li> <li>• 各取り組みは、いわき湯本温泉を温泉観光地としてブランド化していく視点・戦略をもって展開され、まちとしての統一感や連続性、エリアの魅力が発信される必要があると考えています。</li> <li>• <u>御意見も踏まえ、専門家も交え、温泉観光地としての「まちのあり方・デザインの指針」</u>となる戦略を策定し、この戦略に基づきながら各取り組みが展開される仕組みづくりを進めます。市街地再生整備基本計画【全体計画】に、今後の進め方を追加します。</li> </ul>